

信仰の喜び

おはようございます。

(今日は追悼ミサも一緒に捧げています。本来主日の 9 時半のミサはここに与っているすべての信者のためのミサなので個人の追悼ミサをすることは出来るだけ避けています。しかし、故人の遺族の方はカトリック信者の方がいないため、私と遺族の方だけで追悼ミサをしようとしてもミサがなかなか進まないと思ったので今日はこの形で捧げます。

ご遺族の方に簡単に一言申し上げます。もし、故人が残っている家族のために望んでいることがあればそれは何でしょうか？ それは今生きている方が仲良く一生懸命に良く生きることではないかと思えます。追悼ミサで亡くなった人のために祈ることは大切ですが、今生きている兄弟姉妹は心をこめて血のつながりや絆を大切にしながら一生懸命に生きる姿を見せること、これこそ亡くなった方が一番喜ぶ姿だと思えます。

このミサを通して皆さんにお願いしたいことは皆さんが故人のために祈ることと家族という特別に絆に対してその意味を深く感じてみる恵みの時間になってほしいことです。ありがとうございます)

以上はご遺族のためにお話

皆様と時間を過ごし始めて来月初め位が 1 年になります。今日の説教のために昨夜準備しながら思ったのは、1 年経ち感じたことについて皆様と分かち合ってもいいんじゃないかということでした。実際に私が着任してからの約 1 年で皆様の中に色々な変化が見えます。それは肯定的な変化として、ものすごくうれしいことで私にとっては遣り甲斐を感じられることです。今日私は皆様に自分が持っている夢に付いて話したいです。

その夢は 1 年前に申し上げた三つの司牧の方針、即ち“私達の共同体は祈られる共同体” “分かち合える共同体” “自分が味わった喜びを伝える共同体”ということと繋がる話になると思えます。皆様も覚えていると思えます。それはかなりかなえられていると感じています。しかし、まだ行くべき道は遠いと思えます。もっと沢山の方が力を合わせ、素晴らしい信仰の共同体になって欲しいです。私たちの前には色んな困難さ、乗り越えなければならぬ難しさが待っていると思えます。しかし、その時、正しいそして望ましい信仰に満たされている共同体ならば何も心配しなくてもいいと確信します。そのためにふりかえって見ましょう。まず具体的に信仰を感じているのか、生きている意味と目的を感じているのか、自分にとってキリスト・イエスが生き方の基準になっているのか。

イエス様が皆様の行く方向の中心になっていればどんな環境にいてもきれいに上手く行けると思えます。ミサに来ている人で疲れた顔、苦しむ顔、悲しい顔が見えます。なぜミサに与っても信仰生活をしてそこから救われないのか、なぜ暗い顔をしながら信仰生活しているのかそれが悲しいことです。いつも申し上げているように信仰は喜びです。喜びを感じられなければ面白さも感じられず、意味もわからないので喜びを人に伝えたい気持ちもなくなります。もう一回申し上げます。皆様は信仰の中で幸せになってください。本当に喜びを感じてほしいです。その喜びが自分のものになれば、その喜びは自動的に他の人に伝えられます。

実際に私にはもどかしい気持ちが沢山あります。なぜ私ができるのに他の人は出来ないのか？ なぜ自分が感じている喜びを他の人はわからないのか？ そういうことを考えると息苦しくなります。皆様私の夢は必ずかなえられると思えます。私にはそのようになる可能性、そして希望がよく見えます。いいえ、ただ可能性とか希望ぐらいだけではなく色々な変化の動きを実感しています。このカトリッ

クの信仰、イエスに出会ったことを力強く感じてください。求めようとするものは与えられます。

勿論、信仰的に満ち溢れていてもいろいろな難しさは変わらずに立ちただかってくると思います。しかしそれは問題ではありません。ある人は信仰があれば悪いことは自分の前に起こらないとっているようです。それで一生懸命祈っていても自分の周りで理解できない悪いことが起きたら「私は神様に対して信頼感が持つことが出来ない」と言う人がいるかも知れません。それは信仰ではありません。私達が信仰で神様と結ばれても同じことは起きます。ただ同じ困難なことが起こってもその起こったことに対してどのような心で迎えるのかが変わります。このような難しさをどのように受け入れて乗り越えて行くべきかを考えながら自分の生き方が変わって行くのが信仰ではないでしょうか。

多分、今日ミサに与っている皆様もいろいろ苦しみがあると思います。その皆さんの苦しみにイエス様はどのくらい躍起になっているのでしょうか？自分の力、頭で解決しようとするには限界があります。信者らしく信仰者らしく神様にイエス様に頼ってみてください。ゆだねることが信仰です。ゆだねる時真の喜びが感じられます。沢山の方がこのようになることこそ、私が皆様に対して持っている夢です。

私達の共同体は26ヶ国の信者の方が集まっています。今日の入祭の歌はインドネシアの青年達がきれいに歌ってくれました。第二朗読は韓国人の姉妹が朗読しました。日本語のミサでありながらフィリピン人、スペイン語圏、南米の人達が多く見られます。私達はこの方々とただ同じ信仰であるということによって兄弟姉妹としての家族になっています。なんの違和感もありません。この方々は日本に来て日本の教会の中で自然に自分の家という気持ちでミサに与っていると思います。これは恵みです。何の力でしょうか？信仰の力ではないのでしょうか。私は毎ミサを通して皆様が信仰的にある程度満足できる生活が出来るように祈っています。それは皆様がわざわざ作られたことによるんじゃなくて、自然に心の底から湧いてくる心の働きを望むことです。

この頃、教会で面談、家庭訪問をしています。教会の信者の5割以上の人が信仰の生活をしていません。皆様もその家族・兄弟姉妹のことが気になるでしょうか？その家族・兄弟姉妹のために不安な気持ちがあるでしょうか？そうでしたら、まず、信仰の喜びに満たされるように努力して下さい。そうすれば、少なくとも今いろいろな理由で教会を休んでいる家族・兄弟姉妹のために祈りが始まると思います。

最後に言葉をまとめて見ます。私は望みます。まず、私たちが信仰の喜びに溢れること、そして、今教会を休んでいる人達も自然に教会に来て自分の力、苦しみを全部神様に出し、慰められ、励まされ、新しい心境を迎えられることを望みます。そのために絶対的にお祈りが必要だと思います。私たち皆が“福音化”されて宣教の主役になりましょう。

是非、疲れたとき、困難が起きたとき、あの方にゆだねてみて下さい。必ず返事があります。この返事を信じながら毎日少しずつ進んで行くことが信仰の道だと思います。

皆様にこの場を借りて1年間の感謝の心を伝えます。「本当にありがとうございました」そして皆様と一緒に過ごすのは後長くても2、3年位だと思います。その間絶対忘れない絆、良い絆をお互に残すために私も一生懸命頑張りますので、皆様も宜しくお願い致します。

ありがとうございました。